

だいせんの偉人先人たち

いな むら とう さく
稲 村 容 作

【 分 類 】 しじん 詩人
【 生没年 】 1913年 ~ 1944年
 (たいしょう 大正2年) (しょうわ 昭和19年)



大仙市強首にある詩碑

さんぎょうくみ あい うん どう か 産業組合運動家で農民詩人の稲村容作は、こわくび 強首村に生まれ本名をきむらちゅういち 木村忠一と言った。たかのす のうりん 鷹巣農林高校を首席で卒業、あき た けん のうぎょう し けんじょう けんきゅうせい 秋田県農業試験場研究生として入所後、間もなく秋田県産業組合に職を転じ、せい ねん れん めい じょうにんしよ き 同青年連盟常任書記として活動を始めた。そして昭和8年(1933年)には、むらかみ あくふ 村上悪夫主宰の「しゃど 赭土」に詩を発表するなど、この頃から盛んに詩作を始めている。みなみたいへいよう 南太平洋で戦死するまで、「農村学覚書」という階級的世界観に立った芸術論を展開したエッセイ集や詩「おものがわ 雄物川べりに育つもの」「ぺんぺん草物語」の発表、機関誌「秋田の産業組合」の編集などを手掛けている。

出典 『郷土の先人大仙市西仙北地域』2011、郷土の先人調査・編集委員会／編